



霞ヶ浦に世界一の噴水をつくる会活動報告

設立総会

平成26年4月27日：ホテルマロウド筑波

3月に内閣総理大臣認定を受けた、土浦市中心市街地活性化基本計画事業である、「霞ヶ浦大噴水整備事業」を後押しするため、土浦商工会議所をはじめ関係機関15団体の代表が発起人となり、霞ヶ浦に世界一の噴水をつくる会設立総会を開催しました。

200人を超える参加者の中、発起人代表である中川会頭（土浦商工会議所）は、政府の掲げる観光立国を目指す施策と連動し、首都圏の交流人口を誘客するほか、海外からの注目を浴びる噴水整備がなされれば、霞ヶ浦のイメージアップはもとより、周辺市町村、茨城県の活性化に大いに寄与する事業であり、多くの期待が集まり設立総会が出来ることに感謝したいと挨拶しました。

会長には、霞ヶ浦市民協会監事の池田雄一、副会長には、土浦商工会議所副会頭の横山和裕、土浦青年会議所元理事長の矢口健一が選任されました。

総会では、次世代を担う若手団体から噴水をテーマにしたまちづくり提案があり、土浦商工会議所青年部は、観光と防災の視点から、閉鎖された阿見飛行場に代わる滑走路を湖畔に整備すること、土浦青年会議所からは、これまで開催してきたエアショーを更に拡大し、世界一の噴水をバックにエアレースを誘致したいと、それぞれ意欲的に発表されました。

また、総会終了後に行われた記念講演では、内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐 横田清泰様より、土浦市中心市街対活性化基本計画と霞ヶ浦大噴水についてと題し、国が新たに創設した補助制度について説明され、不可能に思えることでも、地域の人々が自信をもって取り組むことが、地域を変える大きな活力になると話されました。



発起人代表として挨拶する、中川会頭